

氏名	中 谷 昌 慶
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 134 号
学位授与の日付	昭和39年3月31日
学位授与の要件	医学研究科外科系歯科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	口腔剝離細胞における性染色質の研究
論文審査委員	教授 渡辺 義男 教授 砂田 輝武 教授 大内 弘

学 位 論 文 内 容 要 旨

1949年 Bary & Bertram は猫の神経細胞休止核に雌に限り存在する小体を発見し、Nucleolar Satellite と仮称した。間もなく性との関連性が明らかにされ、Sex Chromatin と呼称された。

その後、人間を含めた哺乳類やその他の動物の諸組織に於いて Sex Chromatin は研究されてきているが、口腔領域の腫瘍についての研究はみあたらない。

それで私は最初正常口腔粘膜を有する80例について種々 Sex Chromatin を調査した後、70例の良性及び悪性腫瘍について、Sex Chromatin の発現率、形態及び大きさ等について検索を行った。

また、14例の性分化異常および性器異常の患者についても検索を行ったのでその成績を併せて報告した。

(岡山医学会雑誌 第75巻 11, 12号)
(昭和38年12月31日付発行に掲載予定)

論文審査の結果の要旨

中谷昌慶提出の「口腔剝離細胞における性染色質の研究」に関する学位論文につき、審査した結果の要旨は、次の通りである。

正常口腔粘膜より剝離する扁平上皮細胞の核中にみられる性染色質について、Cresyl echt violet 染色により、その形態、大きさ、性差を、頬部、歯肉、舌等部位別に検索した。その結果この発現率は女性においては約22%、男性においては0.15%と明らかな差をみとめた。

又、口腔領域の各種良性腫瘍、悪性腫瘍各々35例についての検索を加えて、同様に女性について有意差をもって圧倒的に多く出現することを認めた。更に性分化異常、および性器異常患者においても染色質検索により本来の性と適合一致をみとめた。以上より口腔剝離細胞学において、本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。